

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.2.0)

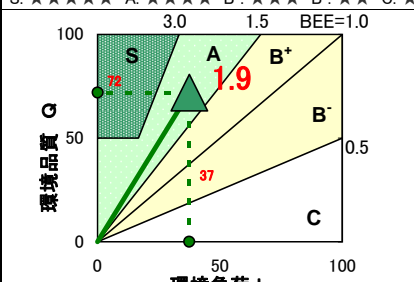
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本輸送機(株)新本館	階数	地上5F
建設地	京都府長岡京市	構造	SRC造
用途地域	工業地域	平均居住人員	221 人
気候区分	地域区分 I	年間使用時間	1,760 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年9月 予定	評価の実施日	2009年8月5日
敷地面積	44,509 m ²	作成者	田中 康達
建築面積	1,352 m ²	確認日	2009年9月1日
延床面積	5,232 m ²	確認者	鈴木 裕幸



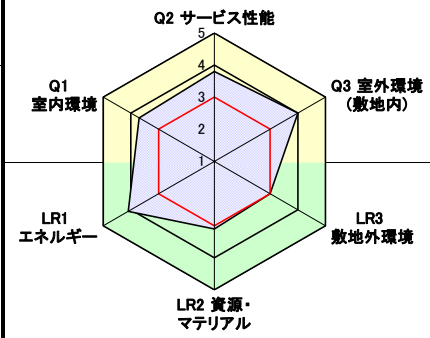
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9 ★★★★★☆

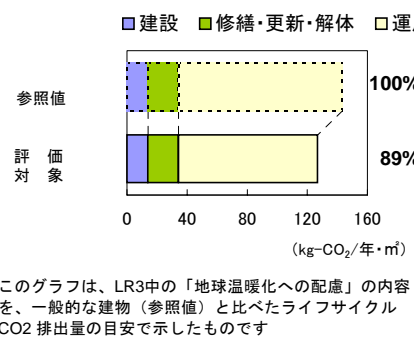
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★



2-2 大項目の評価(レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

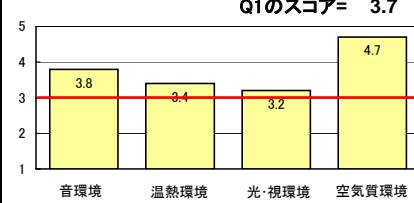
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.8

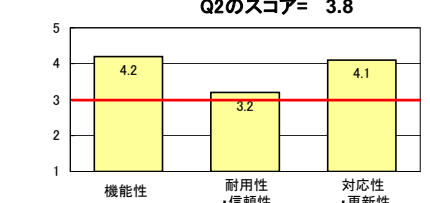
Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7



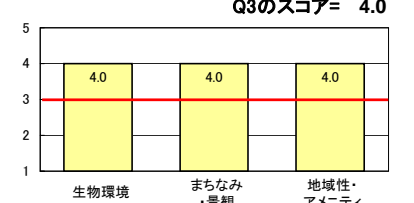
Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8



Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.0

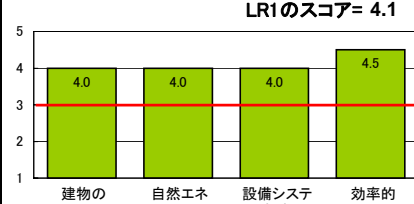


LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

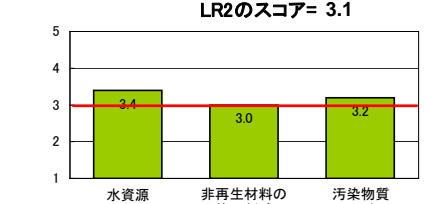
LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1



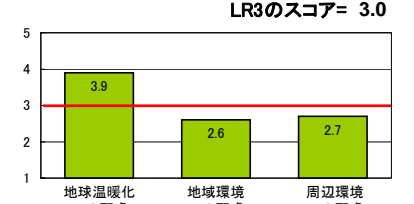
LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1



LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0



3 設計上の配慮事項		
総合 将来の様々なニーズに応えるべく、事務室ゾーンは自由度の高い空間として計画している。 外装は、彫の深い形状とすることで日射遮蔽効果を期待し、かつLow-eガラスや自然換気窓によって、外部負荷を軽減できるものとした。 さらに屋上緑化を行い、熱負荷の軽減はもとより、周辺環境に対しても配慮した緑化計画とした。	その他 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。	
Q1 室内環境 low-eガラスの採用・深い庇形状の採用・冷暖フリー方式の空調機採用	Q2 サービス性能 節水型器具の採用・受水槽の二層化・配管の防振	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内は緑化に努め、駅前広場や前面道路に面した側には、高木を積極的に植えた。
LR1 エネルギー 自然換気システムの採用・外気冷房の採用・省エネモニタの採用・省エネルギー目標値の策定	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	LR3 敷地外環境 節水型機器の採用・ハロン剤の不使用

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency (建築物総合環境性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい